

第九回日蓮宗化学研究発表大会

宗門運動と檀信徒の関り

池上宗俊

今回で三回目の発表となりますが相変わらず緊張しています。多勢の前で時間内でお話をするが大変不馴れです。原稿の棒読みでお聞きぐるしい点多々ありますことをお許し下さい。「宗門運動と檀信徒の関り」ということで発表させていただくことになりました。前回平成十七年度第六回るときは、「世界にひろめよう正法」という論題で発表させていただきました、混迷する世界にお題目の縁がひろまることを願い述べさせていただきました。この時はまだ「立正安国・お題目結縁運動」の実動の前で、私自身も試行錯誤のすえ突飛なことを申し上げたのではないかと反省しています。今年のこの教化発表大会の主要テーマとして、「立正安国の精神を世界の人々に伝えるにはどうしたら良いか」、具体的な提案を発表し合う大会というところで意見を募集されました。宗務院では日蓮宗国際青少年リーダーの研修を行い世界の人々に正法の教えを伝え学んでいただいています、五ヶ国からの参加は言葉の問題が一番苦労されたのではないかとお察し致します。今回の宗門運動の重点項目の一つに、「国際交流活動」の推進があります、一檀信徒として、どのように関わられるのかを考えてみました。

三十数年前、四十の手習で、市主催の初級の英会話教室に通ったことがありました。講師は中学校の英語の先生と、ホームステイしている留学生で、彼は敬虔なクリスチャンでした。日本人は食事のときお祈りをしないのですか、と

いう質問を受けました、私は、「します」と答えました。「食法」を思い出したからです、先生に通訳をと考えましたが、宗教用語が正確に訳してもらわなければ却って良くないと思ひ止めました。その後、「英語版信行必携」が有ることが分り、入手し利用しています。近頃はどこの市町村にも、国際交流課があり、各国と活発に交流しています、檀信徒の皆様も彼等と接すること、多々あると思います。留学生は、異文化、習慣、風俗、言語、歴史、等を学びに来ています。

留学生と接する場合、政治と宗教の話は禁句と言われていますが、押しつけがましくしなければ、程度の問題で、弊害が生ずることはないと思います。各寺院または、組寺の教化の代表寺院に、英語版信行必携や必要と思われる資料等を整え、宗徒の便宜をはかっていただきたいと願っています、これらの資料を贈呈し、法華経を正しく理解していただき、宗徒は、あらゆる機会を捉え利用することにより、正法を知ってもらえる一助になればと考えます。御検討いただければ幸に存じます。混乱する世界にお題目の縁がひろまることを願ひ、全世界が平和で安穩な世になればとの思いから述べさせていただきました。「立正安国・お題目結縁運動」がスタートして一年半になりますが、地方の末寺までこの運動の主旨が行き亘っているのでしょうか、反応は今一ではないでしょうか？ 全国の寺院、教会、結社、五千百七十六ヶ寺（日蓮宗新聞 平成十八年八月十日号の記事より）の宗徒全員が関心をもち、真剣に、ひたむきな態度で取り組まなければ成就しません。最近では墓離れ、寺離れ、葬式離れと言われています、多様化している考え方に住職も大変御苦勞をなさっています。宗徒の方は、先祖が日蓮宗であったというだけで、檀家になっている宗徒が多いように思われます。個々人が日蓮聖人に帰依し、み教えを守り、理解し、親子世代間における信仰等の共通の課題について、円滑に継承していくには、常日頃、家庭内で話しあうことが肝要と思います。お寺の各種の行事には、必ず法話や説法等がありますが、解釈しにくいこと、理解しにくいこと多々あります。ことに、御遺文について話されるときは、現代の世の中の出来事に譬え、なお中学生程度のレベルで、理解できるようにお話しただければ

ありがたいと思います。当寺では教学の研鑽にも力を入れていますが、一回休むと前回の講義が解りませんので遠ざかり、受講者も減ります、それに、毎回住職が資料を整理し、コピーをとり学んでいますので効率的ではありません。多忙な住職です、一ヶ寺では大変です。近隣何ヶ寺が集り、当番制で行なえば時間的な余裕をもつことができます。この件については近隣の住職さんと協議していただきます。このとき前後の講義の整合性が大事です、今回の宗門運動を機に、「カリキュラム」に応じた教科書があれば便利で、自習もできます、教科書をぜひ、作って戴けないでしょうか。

今回の「立正安国・お題目結縁運動」の実動にあたり、昨年四月一日、日蓮宗管長猥下は「教旨」^{まぶし}を、宗務総長は「論達」^{ゆた}を発表されましたが、宗徒全員に深く浸透させて下さい。この主旨を十分に理解させ、今回の運動に宗徒として、一人一人が自分に何が出来るのか、また、どのように協力できるのかを考える大変よい機会です。

また檀信徒は、全国の日蓮宗の動向を知ることでも重要なことであると思います。行学の二道を正しく理解し実践しなければ何もなりません。これらの情報を得る一番よい方法として「日蓮宗新聞」の講読を是非お勧めします。全国の寺院の行事や、僧侶のこと、檀信徒協議会のことや、また、宗徒の立派な業績、全ての分野について網羅しています。講読することにより自分の足りないところや、「菩提寺」の良い所、改善すべきところ等が良く解ります。一昨年八月十日号の日蓮宗新聞によりますと講読部数は五万部と出ていました、檀信徒数は、三百八十五万一千九百七十六人、一戸当り六人家族と計算すれば、約六十四万戸になります。五万部の講読はあまりにも少ないのではないのでしょうか。全国の寺院と、教会と、結社は五千百八十ヶ寺あります、一ヶ寺当りで約十部です、せめて三十万部ぐらい講読していただきたいと思えます、月三回の発行で、読みやすく、無駄のない記事ばかりです、編集もよく行きとどいています。皆さんが講読することにより、宗徒同志に共通の話題も生れ意思疎通をはかれる有効な手段媒体物として、大変重要なものと考えています。値段も手頃で無理なく講読できると思えます。今進めている、「宗門運動」

に檀信徒はどのように関わっていけばよいのかが見えてくるのではないかと思えます。

私は日日の生活の指針にし、記載された方々の記事を読み、立派な行い、活発で意欲的な活動に触発され感動を覚えます。また当寺の仲間の勉強会の参考資料として活用し重宝に利用しています。

私は以前、菩提寺の世話役を平成十八年まで、十数年間程ですが務めさせていただきました。平成十五年に庫裡新築にあたり、建築委員として携わりました。平成十八年に入り急激な体調不良により、世話人として役目を果すことが困難になり退いていますが、菩提寺発展のため、私の出来る範囲で惜しみなく協力をしていくことを決意しています。

日蓮宗の実践面の組織として、宗務院が中央に置かれ、全国各都道府県に宗務管区があり、さらに組寺が、各寺院には護持会が組織されています。各寺の総代、世話人は経営関係のみ携り、宗門運動等については住職が一手に引き受けて行うものと思っていました。最近、「日蓮宗々憲」が有ることを知りました、抜粋のものです。檀信徒の役目として第七十七条から第八十一条まで、役割等が決めてあります。この宗憲を効率よく活用するには、菩提寺の事業や行事は檀信徒一体となって取り組むように、同じく宗門運動のときも総代が責任者になって十分に活動できるようにしてあげてはいかがでしょうか、宗徒が一体となって進めなければ目標に到達できません。組織を上手に生かすことにより、一層宗門運動に力が加わります、それには先ず、何と言っても、下部組織である護持会を確かなものにしなければなりません、どんな小さなことでも喧喧諤諤、自由闊達な意見を出しあえる場にする事です、下意(檀信徒の声)が活発になれば、上部へ伝わって行きます。従来の上意下達ではなく、「下意上達」の方向に向かえば、理想的なものになります。

日蓮宗は、仏教の正統を伝え、日蓮聖人が法華経のお題「南無妙法蓮華経」をお唱えになってお開きになった正しい宗団です、七百五十五年の長い歴史を通じて培い伝えて来た伝統ある日蓮宗を後世に継げなければなりません。檀

信徒は祖師の御教訓を身につけ、正法「法華経」のもと一つになって「立正安国・お題目結縁運動」を成しとげたいと考えています。宗徒一人一人が小さなことでも、未信者や他宗の方々にいろいろな場面で、日蓮聖人が「釈尊、宗を立つる法華を極と為す」（秀句十勝抄の中で）という御言葉を示しておられます通り、日蓮宗では法華経の宗団は釈尊の宗旨であり、一番尊い宗団であるということ常日ごろ、私達は学んでいますので、自信を持って未信者や他宗の方にお話できます、ちかごろ当寺に見知らぬ方々がお参りに来ています。この人達を誘った檀徒の人に伺いますとスポーツクラブの仲間、世間話から当寺にお誘いしたとのことです。また趣味の会の先輩の方の場合は、宗教の話が話題になる頻度が多いようです。日頃の法話や勉強会で学んだことを話しているうちに法華経は正法であることに魅力を感じてお参りに来ています。住職も他宗の方、未信徒の方々に積極的に働きかけています。入信後は住職の真摯な態度で親切に接している姿を拜見し、既存の檀徒も見習い、末長く定着しますよう、全員が心がけています。末法の人々の信仰が法華経に集まり、「皆帰妙法」で述べられています日蓮聖人の御念願達成のためには、法華経の信仰に徹し、正法のもとに、一つになり心と心が、固く結ばれることにより、何かを生みだす力となり、祖師の御教訓を身につけ、実践することにより成就するのではないかと思っています。現実の姿は私達の願望とは逆に闘争に終始し、世界は激動化の方向に進み人類の危機に面しています。人心の荒廃により極悪非道な犯罪が相次いで起きていますし、人為的なものが原因で温暖化により天災が起きています。「立正安国論」を建白・諫曉した時代の再来のように思います、日蓮聖人は、正法の滅びんとするを見て、これを護らないならば過去の功德は悉く失せて、その国には「三不祥の事あるべし善神悉く捨離せん」と申しています。衆生を憐れむ諸天善神は、皆この国を捨てて余所へ行ってしまうのでしょうか、そうなるのはもう遅すぎるのです、留まっていたただかなければなりません。総ての宗徒は、宗憲に示されている檀信徒の条項をよく噛み締め十分機能させ、所属する寺院等は別々でも同じ信仰に生きています、共に日蓮聖人を信奉する「日蓮が人類」と呼ばれている者同志です、今回の宗門運動のスローガン（標語）は「いの

ちに合掌」と決りました。実際の行ないとしての指針は「但行礼拝」の実践ということですが。相当な覚悟をもって、信行に励まなければ菩薩の心に近づくことができません、私には僅かな歩みしか出来ませんが「常不輕菩薩品」の中の一句「我深敬汝がしんきやうにょから汝等にょくかいさう皆行菩薩道ほさつどう」まで二十四文字「私は、あなたがたを心から敬います。あなたがたは必ず仏道を成就なさるのですから」を座右の銘として「立正安国・お題目結縁運動」を宗徒の一人として、私の所属する寺院の住職、寺庭婦人、檀信徒の仲間と共に強力に推し進め、日蓮聖人の誓願に少しでも報いるよう精進する所存です、さらに、今回の宗門運動を機に全世界に、正法「南無妙法蓮華経」が、知れ渡り、ひろまり、さらなる発展を願ひ、釈尊の心を伝え、世界はそのまま仏さまの常住の浄土になることを願ひ、異体同心の気持を持続させ、宗徒と共に頑張っていきたいと願っていますので全国の檀信徒の皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

御清聴ありがとうございました。